

ひろしま
ヒロシマにいた

とも
友だち



ぶん ひやま じゅんこ
文：檜山 純子

きょうりよく なかごし なおみ してい はじゃ びでいん
協力：中越 尚美／シティ・ハジャ・ビデイン

え あいな ひやま ざずり
絵：アイナ・ヒヤマ・ザズリ

ねん がつ にほんぐん いぎりすりょうまらや こうげき
1941年12月、日本軍がイギリス領マラヤを攻撃し

ねん がつ まらや せんりょう
ました。そして、1942年2月にマラヤを占領しました。そ

まらや がっこう にほんご じゅぎょう はじ
れから、マラヤの学校で日本語の授業が始まりました。

まらや にん にほん い べんきょう なんぽうとくべつりゅう
マラヤから3人が日本に行って勉強する南方特別留

がくせい えら らざく いま まれ しあ ペナ
学生に選ばれました。ラザクさんは今のマレーシア、ペナ

んしゅうしゅっしん ゆそふ くらんたんしゅうしゅっしん おま
ン州出身、ユソフさんはクランタン州出身、そして、オマ

る じょほ るしゅうしゅっしん
ールさんはジョホール州出身です。



にほんぐん Japanese army いぎりすりょうまらや
日本軍 Japanese army イギリス領マラヤUnfederated Malay States

こうげき せんりょう
攻撃しました attacked 占領しました occupied

なんぽうとくべつりゅうがくせい
南方特別留学生 Special Students from Southeast Asia

えら いま しゅっしん
選ばれ chosen 今の current 出身です be from

らざく ゆそふ
ラザク Haji Abdul Razak Bin Abdul Hamid ユソフ Nik Yusof bin Nik

おま る
Ali オマール Syed Omar bin Mohamad Alsagoff

ゆ そ ふ お ま る ねん とうきょう にほん
ユソフさんとオマールさんは1943年から東京で日本
ご べんきょう ねん ひろしまこうとうしほん
語を勉強しました。そして、1944年から広島高等師範
がっこう べんきょう
学校*1で勉強しました。

ら ざ く ねん とうきょう にほんご べんきょう
ラザクさんは1944年から東京で日本語を勉強し、
ねん ひろしまぶんりかだいがく べんきょう はじ
1945年から広島文理科大学*2で勉強を始めました。

ひろしま とうきょう くうしゅう すく しず まち
広島は東京より空襲が少なく、静かな町でした。



いま ひろしまだいがくきょういくがくぶ
*1 今の広島大学 教育学部 faculty of education, Hiroshima University

いま ひろしまだいがくだいがくいん
*2 今の広島大学大学院 graduate Schools of Hiroshima University

くうしゅう
空襲 air strike

ひろしま にん なんぽうとくべつりゅうがくせい いま い
広島には9人の南方特別留学生在いました。今のイ
ンドネシア、マレーシア、ブルネイなどから来ていました。

ちゅうごく りゅうがくせい
中国などからの留学生もいました。

にほん せんそうちゅう た もの
日本は戦争中でしたから、食べ物がありません
でしたが、日本人は時々、留学生を誘っていっしょにうち
でごはんを食べました。

りゅうがくせい しょくじ あと ぶんがわん そろ らさ さや
留学生たちは食事の後、ブンガワン・ソロやラサ・サヤ
ンゲなどふるさとの歌を歌いました。



せんそうちゅう さそ さそ
戦争中 during the war 誘って(誘います)invite

ぶんがわん そろ いんどねしあ じゃわとう そろがわ
ブンガワン・ソロ Bengawan Solo (インドネシア・ジャワ島のソロ川

うた
の歌 /song of Solo River in Java, Indonesia)

らさ さやんげ いとおも まれ ごうた
ラサ・サヤンゲ Rasa Sayange (「愛しい思い」というマレー語の歌

Malay language song with title meaning "feeling fondness")

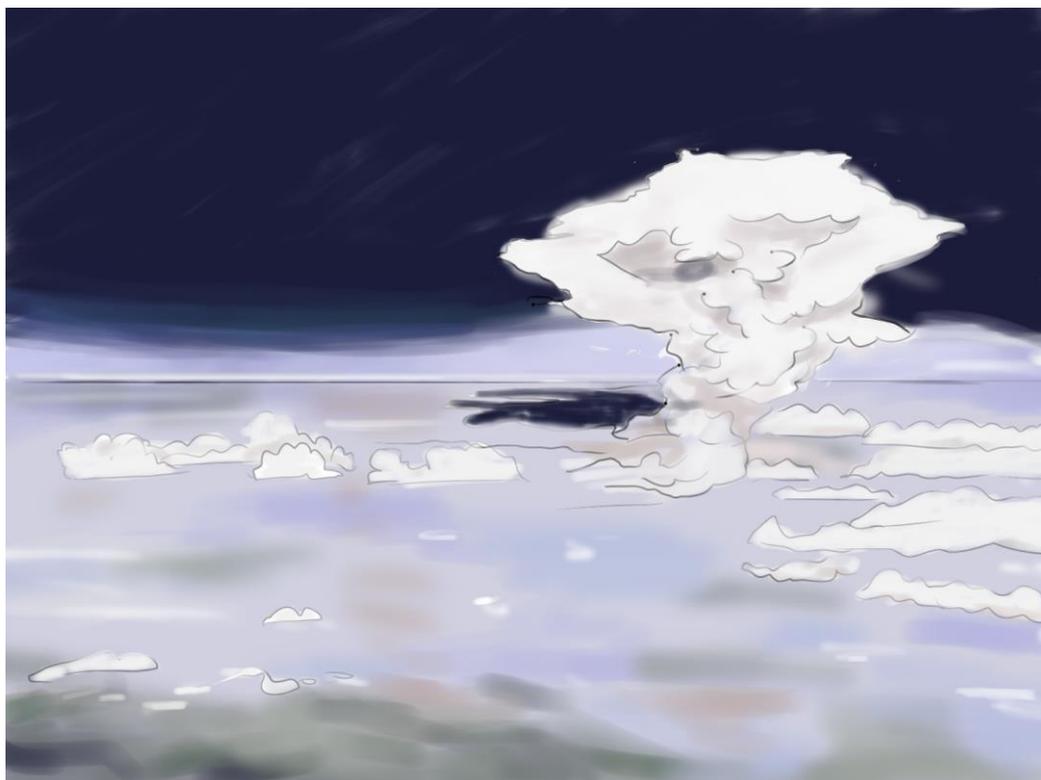
ねん がつむい か
1945年8月6日。

あか たいよう あお そら てん き あさ あたら
明るい太陽、青い空。とても天気の良い朝でした。新

いちにち はじ ら ざく じゅぎょう い
しい一日が始まり、ラザクさんは授業に行きました。

ご ぜん じ ふん つよ ひかり ぴ か っ そら お
午前8時15分、とても強い光がピカーッと、空から落
ちてきました。

いなずま ら ざく い
「稲妻だ！」ラザクさんは言いました。



たいよう ひかり
太陽 The sun 光 the light ピカーッと flushing

お
から落ちてきました It has fallen from / been dropped

いなずま
稲妻 lightning

それは、稲妻^{いなずま}ではありませんでした。そして、地震^{じしん}のよ
うに地面^{じめん}が揺れ^ゆ、壁^{かべ}が傾^{かたむ}き、建物^{たてもの}が壊^{こわ}れました。

「ああ、アッラー^{あつら}の神^{かみ}よ！」

ラザク^{らざく}さんは壊^{こわ}れた建物^{たてもの}の中^{なか}に埋^うもれました。

まわりは真^まっ暗^{くら}でした。ラザク^{らざく}さんは小^{ちい}さい光^{ひかり}を見^みつ
け、やっ^{そと}と外^{そと}にでることができました。



地震^{じしん}のように like an earthquake 地面^{じめん}が揺れ^ゆ (ます) ground shakes

壁^{かべ} wall 傾^{かたむ}き (ます) lean 壊^{こわ}れました has broken

アッラー^{あつら}の神^{かみ} God, Allah 埋^うもれました he has been buried

真^まっ暗^{くら} pitch dark 見^みつけ (ます) find やっ^{そと}と at last

そと たてもの
外にはどこにも建物がありませんでした。まわりは、が
れきだらけでした。ひと どうぶつ や こ したい
人や動物の焼け焦げた死体もありま
した。

らざく あたま ち で ほかに りゅう
ラザクさんも頭から血が出ていました。でも他の留
がくせい した ひと いっしょうけんめいたす
学生といっしょに、がれきの下の人を一生懸命助けまし
た。



がれきだらけ full of rubble や こ したい
焼け焦げた死体 burned corpse

ち で ほかに
血が出ていました was bleeding 他の other

いっしょうけんめい たす
一生懸命 with one's utmost effort 助けました saved



ひろしま おお かじ あつ おお ひと
 広島は大きな火事でした。とても熱いので、多くの人
 かわ なか と こ らざく かわ と こ
 が川の中に飛び込みました。ラザクさんも川に飛び込み
 ました。

おそ ばくだん ひと ばくだん
 とても恐ろしい爆弾でした。一つの爆弾でたくさんの
 ひと な ゆ そ ふ がつなの か な
 人が亡くなりました。ユソフさんは8月7日に亡くなった
 ことが、後で分かりました。

がつ にち せんそう お りゅうがくせい
 8月15日に戦争が終わりました。留学生はふるさとに
 かえ どうきょう い
 帰ることになり、東京へ行きました。

かじ と こ ばくだん
 火事 fire 飛び込みました jumped into 爆弾 bomb
 な おそ
 亡くなりました passed away 恐ろしい tragic, horrible

お ま る とうきょう い とちゅう がつみっ か きょうと
オマールさんは東京へ行く途中、9月3日に京都の
びょういん な ゆ そ ふ お ま る
病院で亡くなりました。ユソフさんもオマールさんもまだ
さい
19歳でした。

ら ざ く ねん がつ か え
ラザクさんは1945年9月にふるさとに帰ることがで
きました。そして、その後、1977年に日本語教育の専門
か ら ざ く へい わ ね が
家になりました。ラザクさんは、いつも平和を願っていま
した。2013年に88歳で亡くなるまでいつも、人々に
ひろしま はなし おそ ばくだん はなし
ヒロシマの話、恐ろしい爆弾の話をしました。

ひろしま べんきょう とも ゆ そ ふ
ヒロシマでいっしょに勉強した友だち、ユソフさんと
お ま る けっ わす
オマールさんのことは決して忘れませんでした。

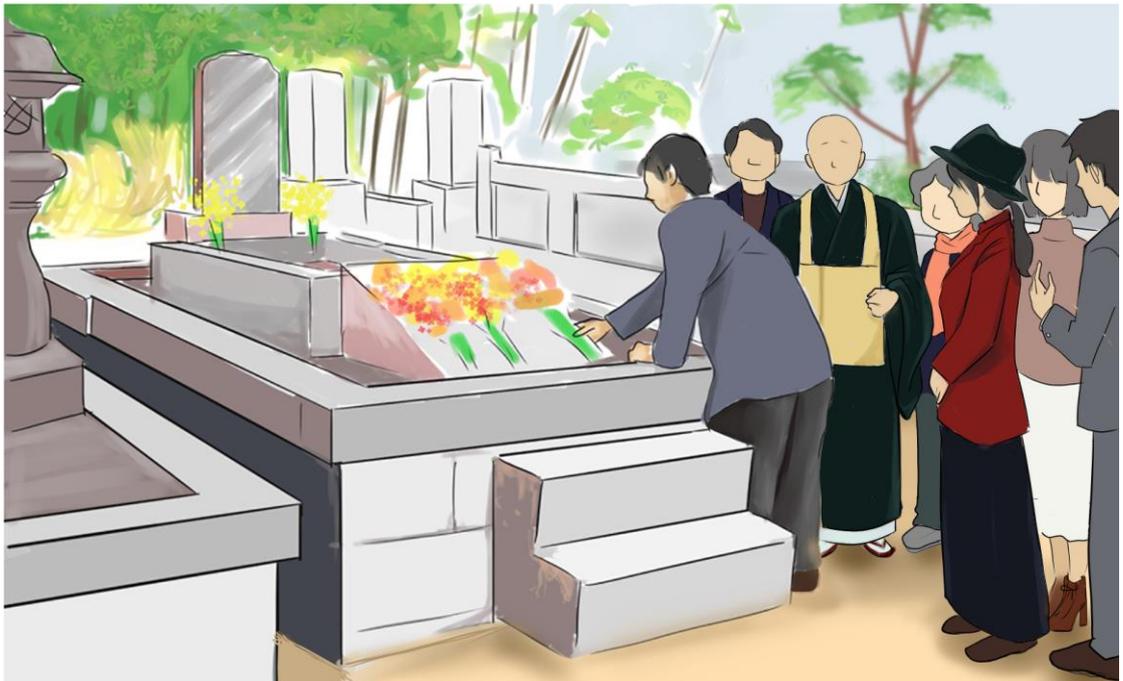


とちゅう せんもん か へい わ ね が
途中 on the way 専門家 expert 平和を願って hoping for peace
ひとびと つづ けっ わす
人々 people 続けました kept on 決して忘れません never forget

あとがき (Postscript)

にほん ひとびと ゆそふ おま ーる い
日本の人々は、ユソフさんとオマールさんのためにイ
すらむしき はか
スラム式のお墓をつくりました。

ひとびと ふたり な ひ まいとし はか まえ いの
人々は二人が亡くなった日に、毎年お墓の前でお祈
りをしています。ふたり こと わす
二人の事を忘れないように、そして平和
ねが
を願って……。



いすらむしき はか
~のために for イスラム式 Islamic style 墓 grave つくります make/build

わす へいわ ねが
忘れないように not to forget 平和を願って hoping for peace

いの
お祈り pray

資料のページ

ゆそふ はか こうぜんじ
ユソフさんのお墓は「光禅寺」にあります。

じゅうしょ ひろしまし さえきくいつかいちにちょうめ ばん ごう
(住所：広島市佐伯区五日市二丁目1番1号)

**The grave of Nik Yusof is located at “Kozen-ji Temple” 2-1-1,
Itsukaichi, Saeki Ward, Hiroshima**



マレーシア、コタバル市訪問団 2019年10月19日

写真提供：青木圭子（南方特別留学生を語り伝える会）

A group of visitors from Kota Bharu, Malaysia in front of the grave of
Nik Yusof. November 2019 Photo: Ms. Keiko Aoki

Reference

中國新聞ヒロシマ平和メディアセンター

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=94251> (in Japanese)

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=94462> (in English)

お ま る は か えんこうじ
オマールさんのお墓は「圓光寺」にあります。

じゅうしょ きょうと し さきょうく いちじょうじ こたにちょう
(住所：京都市左京区一乗寺小谷町13)

The grave of Syed Omar is located in “Enko-ji Temple”, 13 Ichijoji Kotanicho, Sakyo Ward, Kyoto, 606-8147, Japan.



京都市の圓光寺に眠る被爆南方特別留学生サイド・オマール展
(2019年8月20日~9月3日)

Exhibition for Syed Omar had held from 20 August 2019 until 3 September 2019 at Enko-ji Temple



サイド・オマールさん法要(2019年9月3日)

Memorial service had been held on 3rd September 2019 at Enko-ji temple

写真提供:中越尚美(平和の大切さを伝える日本語教材をつくる会)

Photo: Ms. Naomi Nakagoshi



参考資料:

わが心のヒロシマ—マラヤから来た南方特別留学生 1991

オスマン・プティ (著), 小野沢 純 (翻訳), 田中 和夫 (翻訳), 山下 勝男 (翻訳)

南方特別留学生ラザクの「戦後」—広島・マレーシア・ヒロシマ 2012 宇高 雄志 (著)

ユソフさん Remembering Nik 2019 青木圭子 Keiko Aoki

Debu Hiroshima 1992 Othman Puteh

Razak-sensei 2015 Kalthom Husain, Aida Nasirah Abudullah, Hanipah Hussin

広島平和記念資料館 平和データベース (最終閲覧日 2020年3月23日)

Hiroshima Peace Memorial Museum Peace Database <http://www.pcf.city.hiroshima.jp/database/>